

【 復活トロパリ 第5調 】

しんじゃよ、ちちとせいしんとともにはじめ
 信者父聖神共始

なきことばわがすくいのためえに
 言吾救た爲

どうていぢょよりうまれしものをほめうとて
 童貞女生者讃歌

おがむべし、かれあまんじてそのみにて
 拜彼甘其身

じゅうじかにのぼおりしをしのみそのこ
 十字架上死忍其光

うえいのふくかつにてしせしものを
 榮復活死者

ふくかつせしめたまあえばなあり。
 復活給

【 正教の主日のトロパリ 第2調 】

じんじなるハリストスカみよ、われらなんぢのし
 仁慈神我等爾至

じょうなるせいぞうにふくはいして、わがしよざ
 淨聖像伏拜我諸罪

いのゆるしをもとおむ、けだしなんぢ
 赦求蓋爾



は その つく り し も の を て き の ど れ い よ り す く
其 造 者 敵 奴 隷 救
わ ん た め に 、 あ ま ん じ て み に て じ ゅ う じ か に の ぼ り
爲 甘 身 十 字 架 升
た ま え り 。 ゆ え に わ れ ら か ん しゃ し て な ん ぢ
給 故 我 等 感 謝 爾
に よ ぶ 、 せ か い を す く わ ん た め に き た り し
呼 世 界 救 爲 來
わ が き ゅ う せ い し ゅ よ 、 な ん ぢ は し ゅ う じ ん を
我 救 世 主 爾 衆 人
よ ろ こ び に み て た ま え り 。
欣 喜 満 給

【 正教の主日のコンダク 第2調 】



こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い
光 榮 父 子 聖 神 歸 今
ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
何 時 世 世
し ゅ う し ん ぢ よ よ 、 か ぎ ら れ ん ぢ ち の こ と ば は
生 神 女 限 父 言
な ん ぢ よ り み を と り て お の れ を か ぎ い り 、
爾 身 取 己 限

けがされたるぞうをしんせいなるびれいにあ
 汚 像 神聖 美麗 合
 わせて、いにしへのさまにかえしたま
 古 状 復 給
 えり。われらはすくいをうけとめて、
 我 等 救 承 認
 おこないとことばをもってこれをあらわ
 行 言 以 之 顯
 す。

【 聖三の歌 】

代禱) ^{しゅ}主よ、^{けいけん}敬虔なる^{もの}者を^{すく}救い、^{およ}及び^{われら}我等に^き聆き^{たま}給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
 主 敬 虔 者 救 及 我
 らにききたまえ。
 等 聆 給

代禱) ^{よよ}世世に、

アミン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 聖 神 聖 勇 毅 聖

じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う き、 せ い
 聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う き、
 聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
 光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世

せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う
 聖 神 聖 勇

き 毅、 せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を
 聖 常 生 者 我 等

あ わ れ め よ 。
 憐

【 提綱 (プロキメン) 大齋第一主日第4調 諸祖の歌 】

代禱) ^{つつし} 慎 ^き みて聴くべし、^{しゅうじん} 衆 ^{へいあん} 人に平安、



代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{しゅう} プロキメン、^わ 主、^{せんぞ} 我が先祖の^{かみ} 神よ、^{なんぢ} 爾は^{さんよう} 讃揚せられ、^{なんぢ} 爾の名は^な 世に^{よよ} 讃美^{さんび} 讃^{さんえい} 榮せらる、

しゅう わ が せんぞ の か み よ 、 なんぢ は さんよう
主 我 先 祖 神 爾 讃 揚
せられ、なんぢのな は よよにさんびさんよ うせ
爾 名 世 世 讃 美 讃 揚
られん。

誦經) ^{けだし} 蓋 ^{なんぢ} 爾は^{およ} 凡そ^{われら} 我等に^{おこな} 行い^{こと} 事に^{おい} 於て^ぎ 義なり、

しゅう わ が せんぞ の か み よ 、 なんぢ は さんよう
主 我 先 祖 神 爾 讃 揚
せられ、なんぢのな は よよにさんびさんよ うせ
爾 名 世 世 讃 美 讃 揚
られん。

誦經) ^{しゅう} 主、^わ 我が先祖の^{かみ} 神よ、^{なんぢ} 爾は^{さんよう} 讃揚せられ、

なんぢのな は よよにさんびさんよ うせられん。
爾 名 世 世 讃 美 讃 揚

【 使徒經 (アポストロス) 329 半端 エウレイ書 11 章 24 節～26、32～12 章 2 節 】

代禱) 睿^{えいち}智、

誦經) 聖^{せいしと}使徒^{しと}パヴェル^パがエウレイ^{じん たつ}人に^{しよ}達^{よみ}する書^{しよ}の^{よみ}讀、

代禱) 謹^{つつし}みて聽^きくべし、

誦經) 兄^{けいてい}弟^{しん}よ、信^{しん}に由^よりてモイセイ^{ちよう}は長^{およ}ずるに及^{むすめ}びて、ファラオン^この女^との子^とと稱^{いな}えらるるを辭

みて、暫^{ざんじ}時の罪^{ざいあく}惡^{たのしみ}の樂^うを享^{むしろ}けんより、寧^{たみ}神^{とも}の民^{くる}と共に苦^{ねが}しまんことを願^{ねが}い、ハリ

ストス^よに縁^{そしり}る誹^{たから}毀^{さら}を、エギペ^{さら}トの寶^{おおい}よりも更^{とみ}に大^{おも}なる富^{おも}なりと意^{けだしかれ}えり、蓋^{むくい}彼^{むくい}は賞^{むくい}を

仰^{あお}ぎ望^{のぞ}めり。我^{われ}復^{また}何^なをか言^いわん、若^もしゲデオン^も、ヴァラク^も、サンプソン^も、イエツファイ^も、ダヴ

イド^も、サムイル^も、及^{およ}び他^たの預^{よげん}言^{しゃ}者^{こと}の事^のを述^{われ}べんには、我^{われ}に時^{とき}足^とらざらん。彼^{かれ}等^らは信^{しん}に由^より

て諸^{しよ}國^{こく}を從^{したが}え、義^ぎを行^{おこな}い、許^{きよ}約^{やく}を受^うけ、獅^{しし}の口^{くち}を箝^{ふさ}ぎ、火^ひの勢^{いき}を滅^{おひ}し、劔^{けん}の刃^はを

避^さけ、弱^{よわ}きよりして強^{つよ}くせられ、戰^{たたか}いに勇^{いさ}み、異^い邦^{ほう}の軍^{ぐん}を潰^{つい}せり、婦^{おんな}は其^{その}死^し者^{しゃ}を復^{ふく}

活^{かつ}せし者^{もの}として受^うけたり、亦^{また}或^{ある}者^{もの}は更^{さら}に善^よき復^{ふく}活^{かつ}を得^えん爲^{ため}に、免^{まぬ}るるを欲^{ほつ}せずして、酷^{むご}

く戮^{ころ}されたり、他^たの者^{もの}は嘲^{あざけ}弄^{むち}と鞭^{また}扑^なと、又^{また}縲^な紲^{わめ}と圜^{ひと}圜^やとの試^{こころ}を受け、石^{いし}にて撃^うたれ、

のこぎり^ひにて解^{ごう}かれ、拷^あ問^{もん}に遇^{やい}わせられ、刃^{ころ}にて殺^{めん}され、綿^{さん}羊^{よう}と山^か羊^きとの皮^くを衣^{きる}て流^る離^{ろう}し、

窮^{きゆう}乏^{ぼう}、患^{かん}難^{なん}、辛^{しん}苦^くを忍^{しの}び、世^せ界^{かい}に置^おくに堪^たえざる者^{もの}は、曠^{こう}野^や、山^{さん}嶺^{れい}、巖^{がん}穴^{けつ}、地^ち窟^{くつ}に

徨^{さまよ}えり、此^{これ}等^ら皆^{みな}信^{しん}に由^よりて證^{しょう}せられたれども、許^{きよ}約^{やく}せられし所^{ところ}を獲^えざりき、蓋^{けだ}神^{かみ}は

我^{われ}等^らの事^{こと}に於^{おい}て更^{さら}に善^よき事^{こと}を預^{よけん}見^{けん}せり、彼^{かれ}等^らは我^{われ}等^らと偕^{とも}にせずしては全^{まつた}きを得^えざらん

爲^{ため}なり。故^{ゆえ}に我^{われ}等^らも證^{しょう}者^{しゃ}の斯^かく雲^{くも}の如^{ごと}く衆^{おほ}きに圍^{かこ}まれて、凡^{およ}の重^{おも}負^にと我^{われ}等^らを阻^{はば}む罪^{つみ}

とを去^さり、忍^{にん}耐^{たい}を以^{もつ}て、我^{われ}等^らの前^{まえ}に在^ある馳^{はし}場^ばを趨^{われ}りて、我^{われ}等^らの信^{しん}の首^{かしら}、及^{およ}び成^{せい}全^{ぜん}者^{しゃ}

イス^{あお}スを仰^{のぞ}ぎ望^むべし。

(比較用 口語訳) 信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを拒み、罪のはかない歡樂にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選り、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。それは、彼が報いを望み見ていたからである。このほか、

何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。女たちは、その死者たちをよみがえらせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しぼり上げられ、投獄されるほどのめに会った。あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、（この世は彼らの住む所ではなかった）、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよいつづけた。さて、これらの人々はみな、信仰によってあかしされたが、約束のものは受けなかった。神はわたしたちのために、さらに良いものをあらかじめ備えて下さっているので、わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはない。こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。

【 アリルイヤ 第8調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

誦經) ^{しさい} 司祭の ^{うち} 中に ^{およ} モイセイ 及び ^{かれ} アアロン ^な あり、 ^よ 彼の ^{もの} 名を呼ぶ者 ^{うち} の中にサムイルあり、

誦經) ^{かれらしゅ} 彼等 ^よ 主に呼びしに、 ^{しゅこれ} 主 ^き 之に聴けり、



【福音經 (エヴァンゲリオン) イオアン福音書5 端 1 章 43~51 節】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) イオアン^{でん}傳の^{せいふくいんけい}聖福音^{よみ}經の讀、



誦經) ^{つつし}謹^きみて^き聽く^かべし。彼の^{とき}時^ゆイイスス、ガリレヤに^{ほつ}往かんと^あ欲し、フィリップに^{これ}遇いて、之に^い謂
ふ、我に^{われ}從^{したが}え。フィリップは^{ひと}ヴィフサイダの人にして、アンドレイ及び^{およ}ペトルと^{まち}邑を^{おな}同じ
くせり。フィリップは^あナファナイルに^{これ}遇いて、之に^い謂う、我等は、^{われら}モイセイが^{そのりつぼう}其律法に、及び
^{しよよげんしや}諸預言者が^{しる}記しし^{ところ}所の^{もの}者に^あ遇えり、是れ^こイオシフの子、^{ひと}ナザレトの人、^{ひと}イイススなり。ナ
ファナイル^{これ}之に^い謂えり、^{あに}豈^よナザレトより^{もの}善き^い者の^い出づる^いあらんや。フィリップ^{いわ}曰く、^{きた}來りて^み觀
よ。イイススは^{おのれ}ナファナイルの^{きた}己に^み來たるを^{かれ}觀て、^さ彼を^{いわ}指して^み曰く、^{まこと}視よ、^{まこと}誠に^{まこと}イズライ
リ人にして、^{じん}詭譎^{いつわり}なき^{もの}者なり。ナファナイル^{かれ}彼に^い謂う、^{なんぢ}爾^{なに}何に^よ由りて^{われ}我を^し知れるか。イ
イスス^{こた}答えて^い曰えり、^{いま}フィリップが^{なんぢ}未だ^よ爾^{さき}を^{なんぢ}呼ばざる^{いちじく}先、^{した}爾^あが無^{とき}花果樹^{われ}の下に^い在る^{まこと}時、^{まこと}我
^{なんぢ}爾^みを見たり。ナファナイル^{こた}答えて^{かれ}彼に^い謂う、^{ラヴィ}夫子、^{なんぢ}爾^{かみ}は^こ神の子、^{なんぢ}爾^{おう}は^{おう}イズライリの^{おう}王な
り。イイスス^{こた}答えて^い曰えり、^{われ}我が^{なんぢ}爾^{いちじく}を^{した}無^み花果樹^いの下に^よ見たりと^{なんぢ}言ひしに^{なんぢ}因りて、^{なんぢ}爾^{しん}信ず、
^{なんぢ}爾^{これ}此よりも^{おおい}大なる^{こと}事を見ん。又^{また}彼に^{かれ}謂う、^い我^{われ}誠に^{まこと}誠に^{なんぢ}爾等に^つ語ぐ、^{これ}是より^{なんぢ}爾

ら てんひら かみ つかいら ひと こ うえ のぼりくだり み
 等は天 開けて、神の 使 等が人の子の上に 陟 降 するを見ん。

(比較用 口語訳) イエスはガリラヤに行こうとされたが、ピリポに出会って言われた、「わたしに従ってきなさい」。ピリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であった。このピリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にするしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。ナタナエルは彼に言った、「ナザレから、なんのよいものが出ようか」。ピリポは彼に言った、「きて見なさい」。イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた、「見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りが無い」。ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見た、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。また言われた、「よくよくあなたがたに言う。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいは
 主 光 榮 爾 歸 光 榮
 はなんぢにきす。
 爾 歸

※代式祈祷③ へ